

平成17年度 市内遺跡発掘調査に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書

Kandakyuu

神田給遺跡

Minatoyama

港山古墳

Kamimuta

上無田遺跡(第5次)

Akagi

赤木遺跡(第11次)

Tsunetomiyuugakkounai

恒富中学校内地点

Awanomyoumathi-simada

粟野名町島田地点

2006

延岡市教育委員会

序 文

本書は、延岡市教育委員会が国県補助を受け実施した市内遺跡発掘調査事業の調査報告書です。

延岡市は宮崎県の北部に位置し、五ヶ瀬川水系の水力資源を利用した県内最大の電気化学工業集積地として知られています。

近世より県内随一の城下町として繁栄し、県北地域における教育文化・産業経済の牽引者としての役割を担っていましたが、産業構造の転換や少子高齢化に伴う若年人口減少による都市活力の低下に悩まされていました。

こうした状況下、市民参加による「のべおか天下一薪能」などの開催や、九州保健福祉大学の開学をはじめ、悲願であった国道10号延岡道路や国道218号北方延岡道路の部分開通など、大きな変革期を迎えつつあります。さらに、平成18年2月20日にはいわゆる合併特例法に基づき、旧北方町、旧北浦町との合併も行われ人口約13万人を越える中核都市となり、棒踊りなどの新たな伝統芸能の風俗や文化をはじめ、農林水産資源などが融合した活気あふれるまちづくりに歩みだそうとしているところです。

本書が文化財保護への理解を深める一助となり、また、学術研究資料として広くご活用いただければ幸いです。

最後に、発掘調査にあたり宮崎県教育委員会文化財課をはじめ、地権者及び開発事業関係者のご協力を頂きましたことに対して、深く感謝いたします。

平成18年3月

延岡市教育委員会
教育長 牧野哲久

例　　言

- 本書は、延岡市内で実施された各種開発事業に伴い、延岡市教育委員会が国・県補助を受けて平成17年度に実施した市内遺跡発掘調査報告書である。
- 本年度は、神田給遺跡、港山古墳、上無田遺跡(第5次)、恒富中学校内地点、赤木遺跡(第11次)、栗野名町島田地点、上多々良遺跡(第4次)、延岡城内遺跡(第14次)、御堂原遺跡、川辺遺跡の試掘、確認調査を実施した。
- 年度末に調査した上多々良遺跡(第4次)、延岡城内遺跡(第14次)、御堂原遺跡、川辺遺跡は次年度に報告する。
- 本書に使用した遺構・遺物の実測・トレース・図面作成は、山田　聰、尾方農一、數石サヨ子、山本敬子、藤本千鳥、敷石真美が行った。
- 現場及び遺物の写真撮影は各調査担当者が行った。
- 方位は磁北を示し、本書に使用したレベルはすべて海拔高である。
- 出土遺物は内藤記念館及び延岡市民俗資料展示室にて保管しており、今後展示公開の予定である。
- 本書の執筆は各担当者が行い、編集は山田があつた。



Fig.1 延岡市位置図

本　文　目　次

第1章　はじめに

1.はじめに	1	2.調査の概要	1~2
--------	---	---------	-----

第2章　調査の記録

1.神田給遺跡	3	2.港山古墳	4~9
3.上無田遺跡(第5次)	10~11	4.赤木遺跡(第11次)	12~15
5.恒富中学校内地点	16~18	6.栗野名町島田地点	19~21

挿　図　目　次

Fig. 1 延岡市位置図

Fig. 3 神田給遺跡位置図(1/15000) 3

Fig. 5 港山古墳位置図(1/15000) 4

Fig. 7 港山古墳土壙1実測図(1トレンチ・1/80) 5

Fig. 9 港山1号墳主体部実測図(1/20) 7

Fig. 11 上無田遺跡(第5次)位置図(1/15000) 10

Fig. 13 上無田遺跡(第5次)土層断面図(1/80) 11

Fig. 15 赤木遺跡(第11次)調査区配図(1/1000) 12

Fig. 17 赤木遺跡(第11次)出土遺物実測図(1/2) 14

Fig. 2 平成17年度市内遺跡発掘調査地分布図(1/80000) 2

Fig. 4 神田給遺跡調査区配図(1/2500) 3

Fig. 6 港山古墳調査区配図(1/100) 5

Fig. 8 港山古墳土層断面図(3トレンチ・1/80) 6

Fig. 10 港山古墳出土遺物実測図(1/3) 8

Fig. 12 上無田遺跡(第5次)調査区配図(1/1000) 10

Fig. 14 赤木遺跡(第11次)位置図(1/15000) 12

Fig. 16 赤木遺跡(第11次)土層断面図(1トレンチ・1/80) 13

Fig. 18 恒富中学校内地点位置図(1/15000) 16

Fig.19 恒富中学校内地点調査区配置図(1/1500)	17	Fig.20 恒富中学校内地点土層断面図(1/80)	18
Fig.21 栗野名町島田地点位置図(1/15000)	19	Fig.22 栗野名町島田地点調査区配置図(1/2500)	19
Fig.23 栗野名町島田地点上層断面図(1/80)	20	Fig.24 栗野名町鳥川地点出土遺物実測図(1/2)	21

表 目 次

第1表 平成17年度市内遺跡発掘調査地一覧表	2	第2表 赤木遺跡(第11次)出土遺物概察表	15
第3表 報告書抄録	23		

写真図版目次

PL. 1 神田給遺跡遺址(南東から)	3	PL. 2 港山古墳遠景(沖川川河口から)	4
PL. 3 港山1号墳(西から)	4	PL. 4 港山1号墳 稲式石棺残片	9
PL. 5 調査前(閑古清掃後・南西から)	9	PL. 6 土壌1検出状況(1トレンチ)	9
PL. 7 トレンチ配置状況(南西から)	9	PL. 8 土壌1遺物検出状況(1トレンチ)	9
PL. 9 土壌1遺物検出状況2(1トレンチ)	9	PL. 10 出土遺物1(1トレンチ)	9
PL.11 出土遺物2(2トレンチ)	9	PL.12 調査前(清掃後・東から)	10
PL.13 調査状況(東から)	11	PL.14 土層断面検出状況(南壁西側)	11
PL.15 調査地周辺(北方延岡道路予定地から・調査地は等高右側)	12	PL.16 調査前(現市道から・1トレンチ)	13
PL.17 土層断面検出状況(西壁・1トレンチ)	13	PL.18 出土遺物(土器・石器類)	15
PL.19 調査前(西から)	16	PL.20 調査前(東から・後方は井上城跡)	16
PL.21 造成土土層断面(4トレンチ)	17	PL.22 造成土土層断面(3トレンチ)	17
PL.23 有機物検出状況1(1トレンチ)	18	PL.24 有機物検出状況2(1トレンチ)	18
PL.25 調査前(南西から)	19	PL.26 光沢状況(2トレンチ)	20
PL.27 上層断面(1トレンチ)	20	PL.28 遺物検出状況(5トレンチ)	20
PL.29 出土遺物(高杯脚部)	21	PL.30 出土遺物(高杯脚部・内面接合部)	21

第1章 はじめに

1. はじめに

宮崎県北部に位置する延岡市は五ヶ瀬川水系の下流部に開けた街で、豊富な水力資源を活用した電気化学工業集積地となっている。中心市街地には近世延岡藩の延岡城跡があり、「千人殺し石垣」に代表される石垣群や城門跡などが残り、城下には、本小路、北町、中町、南町、紺屋町など藩政時代の地名や町割りが残っている。本市では、1990年代後半よりこうした歴史的遺産を活用したまちづくりに取り組んでおり、「内藤家伝来の能面展」、「のべおか天下一薪能」、「城山かぐらまつり」等を開催しながら文化都市「のべおか」の情報発信に努めている。また、立ち遅れていたインフラ整備も着実に進んでおり、「一般国道10号延岡道路」や「一般国道218号北方延岡道路」の部分開通をはじめ、延岡インターから市街地へのアクセス道路でもある本小路通線は歴史的景観に配慮するなど街の様相は変貌を遂げつつある。一方、行政機構でも大きな変革期を迎えており、「市町村の合併の特例に関する法律」いわゆる「合併特例法」に基づき隣接する北浦町・北方町との合併を行うなど新たな局面を迎えていている。

本年度における埋蔵文化財保護行政は、民間による大規模開発は減少傾向であったが、土地家屋調査にかかる不動産鑑定の依頼件数が増加している。ここ数年の民間開発は小規模開発が主体で、携帯電話会社によるアンテナ設置事業によるものが多い。一方、公共事業についても減少傾向にあったが、学校改築事業や岡富古川地区土地区画整理事業の本格化など集約的に予算措置した事業が行われている。これらの開発事業と埋蔵文化財保護事業との調整資料を得るために、10ヶ所で試掘・確認調査を実施した。

なお、上多々良遺跡（第4次）、延岡城内遺跡（第14次）、御堂原遺跡、川辺遺跡の確認調査は年度末調査であるため、次年度報告とする。

2. 調査の組織

調査主体	延岡市教育委員会
教 育 長	牧 野 哲 久
教 育 部 長	杉 本 隆 曜 (~2006.2.28)
文 化 講 長	渡 達 博 吏
主幹兼文化財係長	九 鬼 勉
副主幹兼文化振興係長	黒 木 育 朗
庶務担当	文化振興係主任主事
調査担当	松 岡 直 子
	山 田 聰
	尾 方 農 一
発掘作業員	安藤登美子、市来三郎、植田正博、岡野武士、小野愛子、小野吉子、小野昭治、甲斐カツキ、甲斐龍男、甲斐理司、川斐次男、甲斐正子、甲斐三千代、甲斐如高、川野尚子、黒川信行、黒木樹、黒木栄二、酒井清子、坂本陽一、白石良子、高橋和代、谷川忠志、中川イヅ子、中川文夫、中島千賀、榎本健一郎、林田裕子、平塚ツサ子、松崎辰磨
資料整理	敷石サヨ子、山本敬子、藤本千鳥、敷石真美

なお、調査にあたっては土地所有者をはじめ関係機関及び開発業者に多くの配慮を賜った。また、調査期間中及び資料整理に際しては、文化課高浦哲氏の協力も得た。深く感謝する。



Fig.2 平成17年度市内遺跡発掘調査地分布図(1/80000)

番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	調査開始日	調査終了日
1	神山給遺跡	延岡市片山町字神山給	携帯電話無線基地局	15.7m ²	20050421	20050426
2	港山古墳	延岡市塙浜町字港山	携帯電話無線基地局	29.1m ²	20050525	20050610
3	上無田遺跡(第5次)	延岡市野地町字上無田	携帯電話無線基地局	10.0m ²	20050714	20050722
4	赤木遺跡(第11次)	延岡市舞野町字赤木	市道拡幅	10.0m ²	20050831	20050909
5	恒富中学校内地点	延岡市古城町	校舎改築	55.0m ²	20050928	20051006
6	栗野名町島田地点	延岡市栗野名町字島田	共同住宅建設	37.5m ²	20051118	20051128
7	上多々良遺跡(第4次)	延岡市古川町字上多々良	土地区画整理事業	83.0m ²	20060208	20060304
8	延岡城内遺跡(第14次)	延岡市天神小路	個人住宅建設	21.0m ²	20060214	20060222
9	御堂原遺跡	延岡市阿元町字御堂原	携帯電話無線基地局			
10	川辺遺跡	延岡市大貫町字川辺	上水道施設改修			

第1表 平成17年度市内遺跡発掘調査地一覧表

第2章 調査の記録

1. 神田給遺跡

所在地	延岡市片田町3198	調査面積	15.7m ²
調査原因	携帯電話無線基地局建設	担当者	尾方
調査期間	20050421～20050426	処置	工事着手

(1)位置と環境

本遺跡は、延岡市の中南部にそびえる愛宕山(標高251.2m)の南側に広がる水田地帯に位置する。水田の中に小島のように立つ独立丘陵で、標高は18.2m、水田との比高差は約17mを測る。

遺跡の北に約250m、愛宕山から派生する低丘陵上では、平成元年に調査を行い約900点の石器類が出土した片田遺跡が所在する。片田遺跡の隣接地では、現在消滅しているが5基の古墳からなる片田古墳群が所在した。また、須恵器片などの表探もされている。この他にも周辺地には、片田貝塚、沖田貝塚と縄文海進期の海岸線を思わせる遺跡が点在している。

(2)調査の概要

調査は丘陵の変化点、平坦面を中心に4箇所のトレンチを設定し行った。4箇所とも淡黄褐色土が約30cm、その下から黄褐色砂質岩盤が検出された。周辺の表探も試みるが、遺物は採取できず、また、地形の大きな改変も伺えないことから、今回の調査地に埋蔵文化財の包蔵の可能性は無いと判断した。

(3)出土遺構・遺物

本調査では、遺構・遺物とともに出土していない。

(4)まとめ

今回の調査では、丘陵の頂部付近は対象地にならなかった。今後の開発では、充分に留意する必要がある。



Fig.3 神田給遺跡位置図(1/15000)



Fig.4 神田給遺跡調査区配置図(1/2500)



PL.1 神田給遺跡遠景(南東から)

2. 港山古墳

所在地	延岡市塙浜町4丁目1626-1・同1630-2	調査面積	29.1m ²
調査原因	携帯電話無線基地局建設	担当者	山田
調査期間	20050525～20050610	処置	工事立会

(1) 位置と環境

本遺跡は、愛宕山から南側の沖田川下流部に広がる平野部北端に位置する標高約30mの丘陵上に立地する。現況は東西方向に延びる独立丘陵状を呈している。古い航空写真によると、本来は標高約50mを有する南側の独立丘陵から派生した尾根筋が調査地すぐ西側まで下って現市道を横断し、本遺跡地に向かって上りのピークを迎える。さらに東側に尾根筋が延びる地形となっていたようで、東側眼下には沖田川河口及び日向灘を一望することができる。

本遺跡は、戦後の甘藷栽培に伴う開墾中に組み合せ式箱式石棺（以下1号墳）が出土し、昭和30年4月21日には主体部の確認調査が実施されている。しかし、主体部の略図しか残っておらず、正確な出土地及び墳丘の有無など詳細は不明であった。また、事前の現地踏査の段階において、開墾で廃棄されたと思われる箱式石棺片の集積も確認され、複数の石棺群の存在も想定されたため確認調査を行った。

(2) 調査の概要

調査は、地形測量等による1号墳の位置確認を行うとともに、開発による遺跡への影響を慎重に判断するためトレンチ調査を実施した。まず、地権者の協力のもと前回調査の記憶を辿りながらの1号墳の位置確認を目指したが、鬱蒼とした雑木林や伐採されたままの木々が行く手を阻み地形確認すら出来ない状況であった。このため、間伐及び清掃作業を行い地形確認を行った。その結果、開墾時の段々畠跡が出現した他、尾根筋上に墳丘状の地形が確認され、周辺に箱式石棺の残骸と思われる濃紺の結晶片岩片が散在していた。



Fig.5 港山古墳位置図(1/15000)



PL.2 港山古墳遠景(沖田川河口から)



PL.3 港山1号墳(西から)

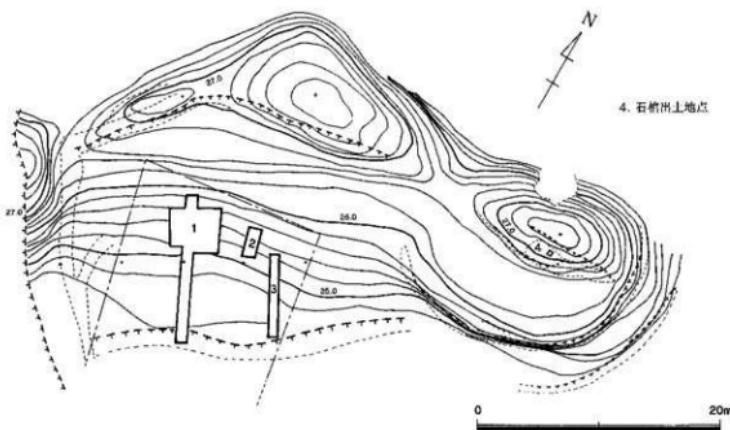


Fig.6 港山古墳調査区配置図(1/400)

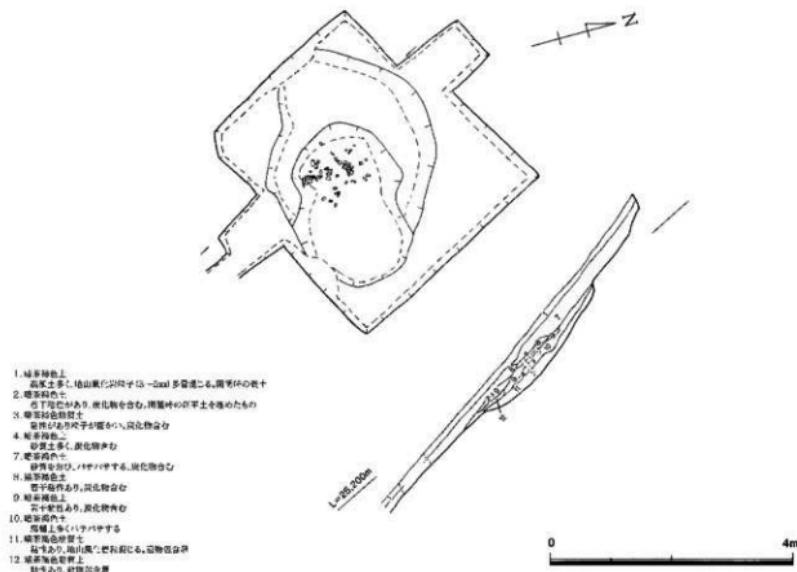


Fig.7 港山古墳土壙1実測図(1トレンチ・1/80)

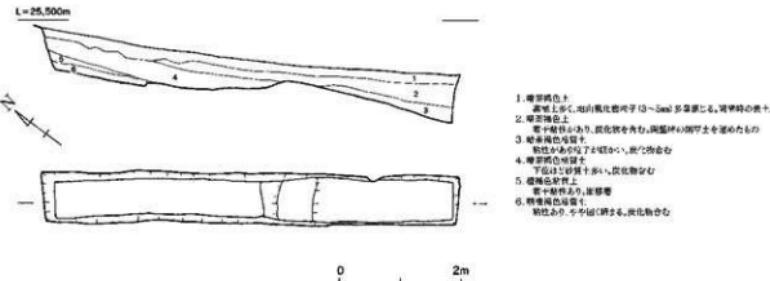


Fig. 8 港山古墳土層断面図(3トレンチ・1/80)

地権者による再立会の結果、石棺出土地点に相違ないと証言を得たこともあり1号墳であることがほぼ確定された。地形測量によると、1号墳は瘦せ尾根のため形状は良好でないが直径約8～10m、高さ1.5～2.0mの円墳とみられ、葺石はみられず南側は開墾により大きく削平して平坦面が形成されおり、墳丘中央部付近には箱式石棺出土時に地権者らによって祀られた仏化器が残っていた。また、1号墳のすぐ西側は括れ部状になって墳丘状の高まりに続いており、あたかも1号墳を含めた前方後円墳のような形状にも見受けられた。こちらも南側が開墾による削平によって詳細な原地形不明のため断定はできない。仮に前方後円墳の場合は全長約20mの規模となり延岡愛宕山南部地域における前方後円墳の初見となるが、何れにしてもトレンチ調査等を実施しないと詳細は不明である。地形測量によって、1号墳と開発予定地との位置関係が判明し、幸いにして古墳に直接影響を受けない模様であったが、関連遺構の存在も予想されるためトレンチ法による確認調査を実施した。

トレンチは、開墾で大きく地形変更が行われてたため、地形変更が少ない頂上部付近の旧畠地の勾配に並行して設定した。調査の結果、1トレンチの地表下約30cm付近から暗黒茶褐色土が検出されたため、範囲を拡大したところ横円形の土壤1が確認され、土師器片が出土した。このため、隣接地に2トレンチ及び3トレンチを設定したが、2トレンチの表土から石錐1点出土した他に遺構・遺物は検出されず、これ以上の遺跡の広がりは確認されなかった。

(3) 検出遺構

1トレンチより土壤1を検出した。形状は横円形状を呈し、長さ1.4m×幅0.9mを有し検出面からの深さ0.3mを計る。本遺構の半分より土器片の集中があり、炭化物が認められた。

港山1号墳主体部（参考資料）

行政資料に記録が残っていたもので、昭和30年4月21日に調査が実施されている。主体部は結晶片岩製（濃紺）組み合せ箱式石棺で、主軸は東西方向に向いている。大きさは、長さ約172cm、幅35～40cm棺身は側壁が各3枚、小口が各1枚の石材を使用している。また、小口の石材は側壁

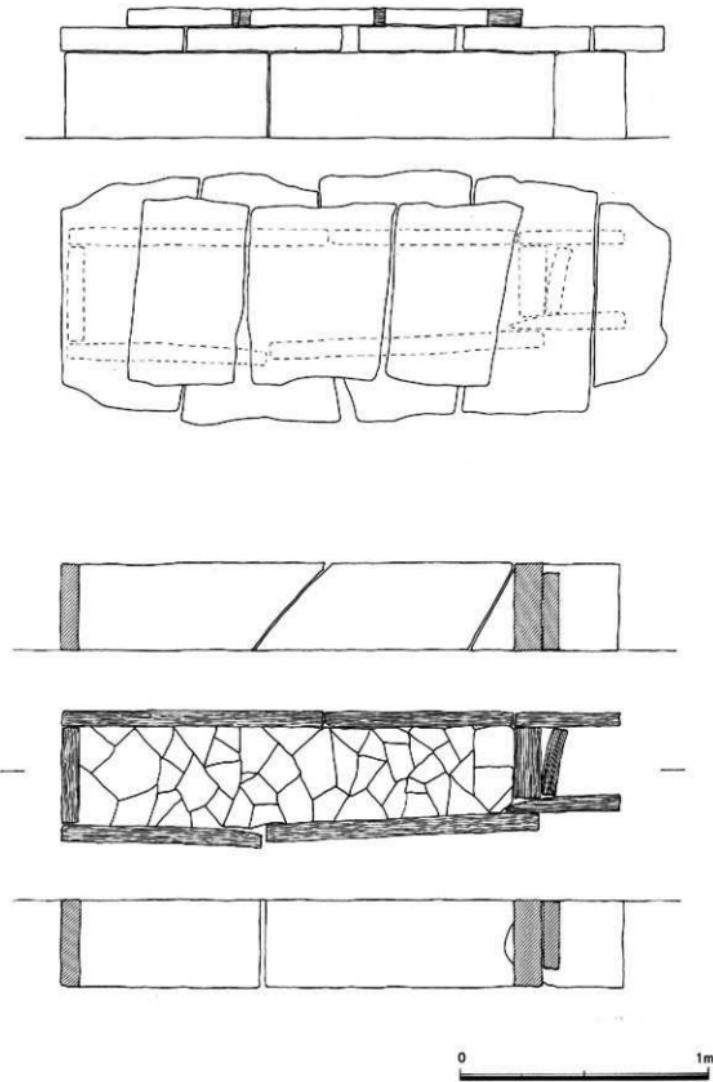


Fig.9 港山1号墳主体部実測図(1/20)

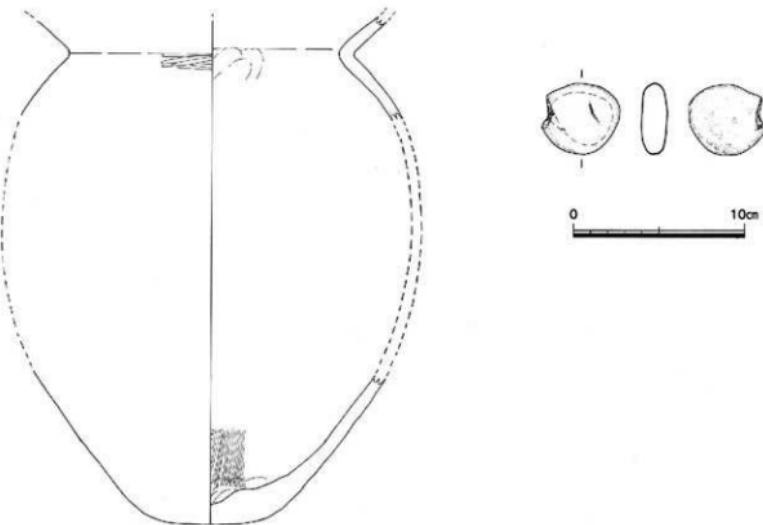


Fig.10 港山古墳出土遺物実測図(1/3)

の内側に設置され、一方には小ぶりの側壁が1枚追加されており、対応する側壁も小型であり入口を意識したものと推定される。蓋石は、幅約90~100cm、長さ50~60cmの結晶片岩（濃紺）の蓋石を5石並べておき、さらに隙間を埋めるように3石を被せている。床面は、結晶片岩片を全体に敷き詰められている。被葬者は枕石等遺物が出土していないため詳細は不明であるが、棺身の構造等から東側が頭位とみるべきであろう。

(4)出土遺物

1は、壺型土器である。丸底気味の平底を有し、肉厚な底部をもち内面底部は平坦で指圧痕が残りその中央部はヘラ状工具による押圧痕（窪み）が作出されている。復元高は約32cm程度で、最大径は胴部中央部付近とみられる。

2は、頁岩製の石錘である。全体的に小ぶりで42.5gを計り、一辺に打ち欠き痕が残る。

(5)まとめ

今回の確認調査では、詳細が不明であった港山1号墳の位置確認をはじめ、本丘陵における遺跡の立地環境を知り得る成果が得られた。今回の開発事業では幸うして古墳への影響は免れたが、今後の開発計画に注視する必要があろう。



PL.4 港山1号墳 箱式石棺残片



PL.5 調査前(間伐清掃後・南西から)



PL.6 土壌1検出状況(1トレンチ)



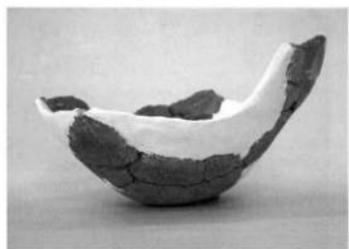
PL.7 トレンチ配置状況(南西から)



PL.8 土壌1遺物検出状況1(1トレンチ)



PL.9 土壌1遺物検出状況2(1トレンチ)



PL.10 出土遺物1(1トレンチ)



PL.11 出土遺物2(2トレンチ)

3. 上無田遺跡(第5次)

所在地	延岡市野地町1丁目4149番2・同4150番1	調査面積	10.0m ²
調査原因	携帯電話無線基地局建設	担当者	山田
調査期間	20050714～20050722	処置	慎重工事

(1)位置と環境

延岡市西部に広がる南方地区は、低丘陵地帯及び平野部から構成され、中央部を五ヶ瀬川が東流している。五ヶ瀬川は、一端大瀬川と分流して丘陵底部を横断して北流し、さらに大きく東に折れて河口近くで再び大瀬川と合流して日向灘に至っている。

本遺跡は、五ヶ瀬川によって分断されて東に延びる2列の低丘陵の北丘陵上に立地する。周辺の土地利用は住宅地として開発されており、竹林、雑種地の未開発地が虫食い状に点在している。また、国史跡南方古墳群も分布しており、本丘陵上の南東約50mの地点には第33号墳（円墳）があり、東北東約630mの丘陵先端部にはガンガン石（横穴式石室と推定される）が立地している。これまでに4次にわたる調査が実施され、旧石器～古墳時代の資料が得られている。

(2)調査の概要

本遺跡は、第5次調査となる。開発予定地についてトレンチ法による調査を実施した。

調査の結果、約1.5mまで掘り下げたが全て埋土で覆われており、遺構、遺物は全く検出されなかつた。事前踏査の段階で丘陵平坦面が北へ舌状に延びていると考えられていたが、隣接する住宅地を含めて北側に開折する谷が存在していたことを示すものであった。これによって、本遺跡において概ね東西方向に延びる丘陵が一端括れて幅が狭くなっていたことが判明した。

(3)検出遺構

なし



Fig. 11 上無田遺跡(第5次)位置図(1/15000)

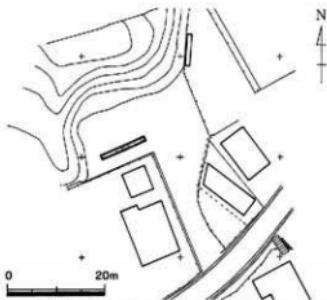
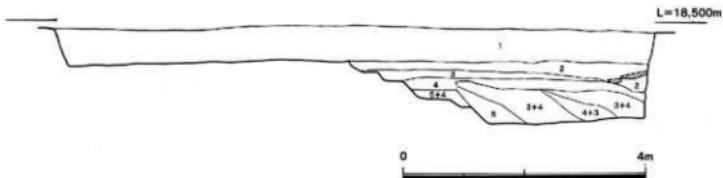


Fig. 12 上無田遺跡(第5次)調査区配置図(1/1000)



PL. 12 調査前(清掃後・東から)



1. 露頭上
土木に沿く高さ9.6m標、スレーブ片が埋かる。
2. 茶青灰色地土
周辺地土で作られる土壤で埋立として利用、活性ある乾燥すると非常に茶い。
3. 茶灰灰色地土上
茶青灰色地土より、アスファルト片が混入する。
4. 茶青灰色地土上
周辺地土で作られる粘性土の地土。
5. 灰黒灰色沙質土
周辺地土が侵入する地土。

Fig.13 上無田道路(第5次)土層断面図(1/80)



PL.13 調査状況(東から)



PL.14 土層断面検出状況(南壁西側)

(4)出土遺物

なし

(5)まとめ

今回の確認調査では、遺構、遺物は確認されなかつたが、旧地形を知り得る資料が得られた。周辺地域には未開発地が点在しており、今後も引き続き各種開発計画に対する慎重な対応が求められよう。

4. 赤木遺跡(第11次)

所在地	延岡市舞野町1484-1	調査面積	10.0m ²
調査原因	市道拡幅	担当者	山田
調査期間	20050831~20050909	処置	保存

(1)位置と環境

延岡市西部に位置する上南方地区は、丘陵地帯が広がりその間を開折谷が形成されており、谷部の丘陵裾には数多くの湧水がみられる。

本遺跡は、標高約100mの丘陵から東方向に舌状に派生する丘陵の南斜面上にある標高約40mの地点に立地し、丘陵平坦面との比高差は約10mを測る。1985年、隣接する保育園建設に伴う調査(第1次)でナイフ形石器を中心とする赤木第I文化層、細石器を中心とする赤木第II文化層が確認されたことで注目を集め、これまでに10次にわたり各種開発事業に伴う発掘調査が実施されている。近年行われた第7次調査では、約1400点以上の石器類が出土し、AT上位より細石刃核、細石刃、ナイフ形石器、剥片尖頭器、三稜尖頭器、スクレーパーが確認され、さらにAT下位からもナイフ形石器類が出土するなど同遺跡の重要性は高まっている。

調査地は、国道218号線から北に分岐する市道沿いに位置し、市道は丘陵を横断して舞野町方面に通じている。丘陵上には東西方向に高千穂往還と呼ばれる旧街道があり、頂部付近で市道と交差している。また、調査地のすぐ南側には谷筋に沿ってTR高千穂鉄道が通っている。

(2)調査の概要

確認調査は、国道218号北方延岡道路改良事業に伴うもので、市道を通行する工事車両の待避帯建設予定箇所についてに実施した。調査地の道路反対側は阿蘇溶結凝灰岩が露出する崖状の段差があり、上部平坦面は1次調査地点が立地し比高差約7mを測る。したがって、調査地に向かって大きく傾斜している状況となるため、調査前段階では遺物等検出はあま



Fig.14 赤木遺跡(第11次)位置図(1/15000)



PL.15 調査地周辺(北方延岡道路予定地から、
調査地は写真右側)

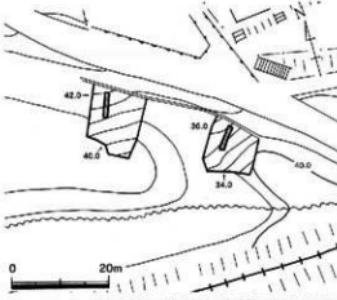


Fig.15 赤木遺跡(第11次)調査区配図図(1/1000)

り期待できないだろうと予想された。調査は、建設予定地2箇所について、各々トレーニングを設定して人力により行った。本丘陵の基本層序は以下の通り。

- (○)は本調査地で確認)
- 第1層表土（耕作土）
- 第2層黒褐色土（クロボク）
- 第3層明橙褐色土（アカホヤ）
- 第4層黒褐色土（クロボク）
- 第5層暗褐色粘質土（漸移層）
- 第6層茶褐色粘質土
- 第7層茶褐色粘質土（固く締まる）
- 第8層暗茶褐色土（上位白斑ローム）
- 第9層黄褐色土（AT）
- 第10層黒茶褐色土（下位白斑ローム）
- 第11層黄褐色粘質土

調査の結果、各トレーニングとも第3層（アカホヤ）をはじめ予想以上に良好な堆積状況が確認され、第4層と第6層にかけて縄文時代の石器や旧石器時代のナイフ形石器、スクレーパー等の石器類が数点出土した。さらに下層の確認を試みたが、調査中に襲来した台風14号による豪雨の影響で湧水が激しくなったため、これ以上の調査は不可能と判断し終了した。

(3) 検出遺構

なし

(4) 出土遺物

1 トレーニングの第4層から縄文土器、石鏃、剥片類、第6層からナイフ形石器、スクレーパーが出土し、2 トレーニングの第6層から剥片が出土した。

1は、チャート製の石鏃である。剥片鏃で、使用により約半分が欠損している。2は、縄文土器で外側にはナナ調整が施され外側に押さえ痕が残っている。3は、流紋岩製の剥片で片面の一部に自然面が残る。4は、流紋岩製の使用痕のある剥片で、縦長剥片を素材とし両側辺に使用痕がみられる。5は、砂岩製の敲石で、一方は叩きにより一部欠損している。6は、流紋岩製のナイフ形石器である。ガラス質の石質で基部の両側辺に調整が施されている。7

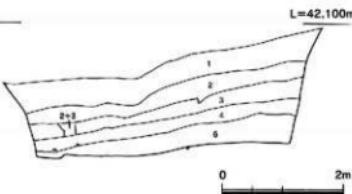


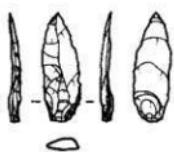
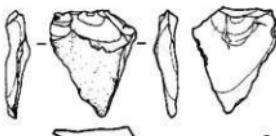
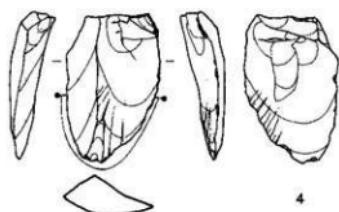
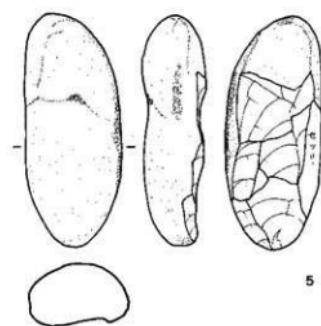
Fig. 16 赤木遺跡(第11次)土層断面図
(1トレーニング・1/80)



PL. 16 調査前(現市道から・1トレーニング)



PL. 17 土層断面検出状況(西壁・1トレーニング)



0 5cm



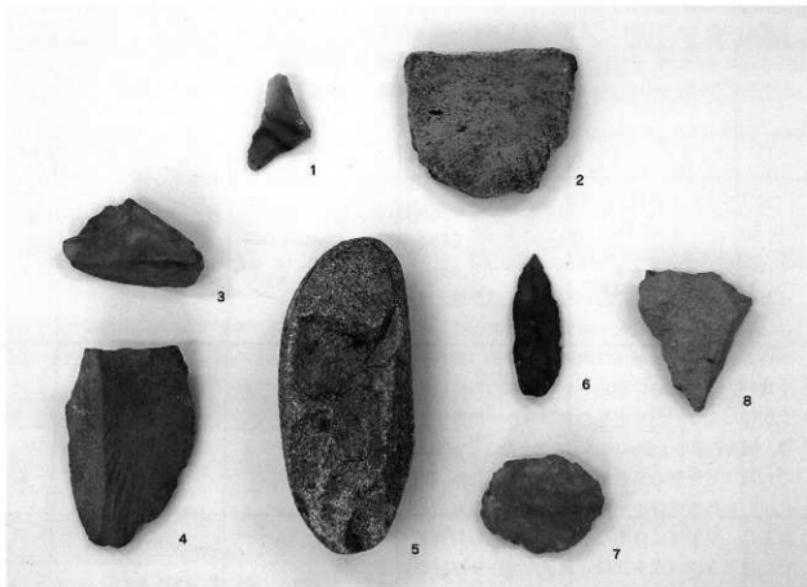
Fig.17 赤木遺跡(第11次)出土遺物実測図(1/2)

は、流紋岩製のスクレーパーである。小型でやや肉厚の剥片を素材とし、両面から加工を施し一部に主要剥離面が残存している。8は、流紋岩製の剥片である。

(5)まとめ

今回の確認調査では、谷部に傾斜する立地環境にも関わらずこれまでの調査に関連する旧石器時代等の遺物が検出されたことから、本遺跡の広がりが広範囲にわたっていることが判明した。したがって、周辺地域における各種開発計画に際して慎重な対応が求められよう。

なお、調査結果を受け県教委を通じて国土交通省延岡河川国道事務所との協議を行った結果、工法変更により保存処置が講じられることになった。



PL.18 出土遺物(土器・石器類)

No.	トレ ンチ 出土 層位	出 土 層 種	石 材	長	幅	厚	重量	文様・調整		色 調		備 考	
								外 面	内 面	外 面	内 面		
1	1	4	石鏹	チャート	3.0	0.6	0.4	1.4					半分欠損
2	1	4	深鉢										
3	1	4	剥片	流紋岩	2.5	4.4	1.1	11.0	無文・ナメ 無オサエ	無文・ナメ 無オサエ	淡茶褐色	淡茶褐色	
4	1	4	使用痕のある剥片	流紋岩	5.9	3.7	1.4	28.3					
5	1	4	敲石	砂 岩	9.1	3.8	2.4	93.5					
6	1	6	ナイフ形石器	流紋岩	4.3	1.5	0.5	2.3					
7	1	6	スクレーパー	流紋岩	2.9	3.4	1.4	12.1					
8	2	6	剥片	流紋岩	4.1	3.4	0.9	8.2					

第2表 赤木遺跡(第11次)出土遺物観察表

5. 恒富中学校内地点

所在地 延岡市古城町4丁目149外
調査原因 校舎改築
調査期間 20050928~20051006

調査面積 55.0m²
担当者 山田
処置 工事着手

(1) 位置と環境

延岡市中南部に位置する古城町は、愛宕山(251.2m)北麓の平野部に位置し、北側には大瀬川が東流している。周辺はこれまでに本格的な発掘調査等が実施されていないため詳細は不明であるが、弥生時代後期の突宍文を多数有する壺形土器(恒富町)や瀬戸内系の影響を示す三角透し穴を有する高坏(三須町)など他地域との交流を示す資料が得られており、弥生時代~古墳時代を中心とした遺跡群の存在が推定されている。また、町名の由来ともなっている中世土持氏の井上城跡があり、天守山(68.4m)と呼ばれる籠城跡には曲輪群が残存し、谷を挟んで東側には居館があった高台(創価学会会館付近)が残っている。当時、土持氏は西の三田井氏(西臼杵郡高千穂町)及び南の伊東氏(東臼杵郡門川町)との対立関係にあり、旧街道筋の東側高台に位置する本城は、同氏の戦略上拠点的存在であったことが窺える。この他、居館跡の高台斜面上には古城貝塚(繩文時代?)や日常雑器を生産していた古城窯跡(近世)存在し、平野部には本市能楽の黎明期の舞台ともなった忽泉寺跡(田中薬師寺跡・中世)と呼ばれる伝承地が残っている。

平成17年8月、開発計画照会に対する回答を受け、恒富中学校内における校舎改築事業を把握。予定地は「周知の埋蔵文化財包蔵地」に含まれないが、井上城跡東側周辺にあたることから事業の詳細について担当課(市教委総務課・建築住宅課)と協議を行った。その結果、現グラウンドに3階建て校舎2棟の建設計画があり、今年度下半期に着工したいとの意向であった。このため、埋蔵文化財所在の可能性を指摘し、事前に市教委において試掘調査を実施することになった。



(2) 調査の概要

試掘調査は、校舎建設予定地内の4箇所を設定してトレンチ法により実施した。

調査の結果、各トレンチから約110~140cmの造成土の石炭ガラ等を検出し、下層より昭和36年(1961)の恒富中学校開校前の旧水田面を検出した。

この面は湧水層となっていたが、トレンチによっては湧水がない箇所も見受けられた。下層を掘り進めたところ、粒子の細かい青灰色粘土層が厚く堆積しており、各トレンチの地表下約3.0~3.7m付近で草・木葉を多く含む腐植土層を検出し、時期不明であるが調査地一帯の古環境が湿地若しくは池が存在していたと考えられる。延岡藩主有馬家(江戸時代前期)に描かれた古地図にも調査地東側一帯(新延岡警察署付近)に東西方向の池状の地形が描かれていることから、ある時期における旧大瀬川河道の痕跡を示しているとも思料される。さらに下層を掘り進めたところ青灰色粘土の同一層が連続しており、湧水も



PL.21 造成土土層断面(4トレンチ)



PL.22 造成土土層断面(3トレンチ)

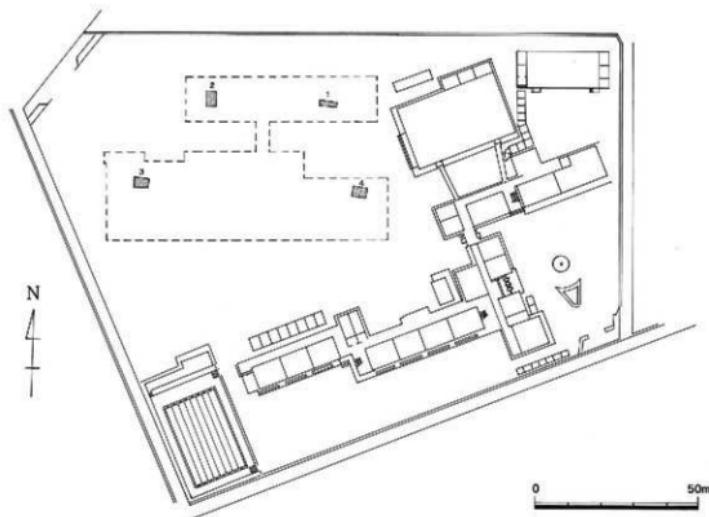


Fig.19 恒富中学校内地点調査区配置図(1/1500)

激しくなったため、地表下約4.2m付近で調査を終了した。

(3) 検出遺構

なし

(4) 出土遺物

各トレンチの造成上から近現代（大正～昭和初期）の一升瓶片、磁器類を検出した他、1トレンチの旧水田面下約30cmよりL字状になった竹編み状の断片を検出したが、湧水激しく詳細不明。

(5)まとめ

今回の試掘調査では、井上城跡等に関連する遺構、遺物は検出されなかつたが、周辺の古環境を知るうえで良好な資料が得られた。一帯は良好な住宅地ともなっているため、引き続き開発事業に対する調整等が必要になろう。



PL.23 有機物検出状況1(1トレンチ)



PL.24 有機物検出状況2(1トレンチ)

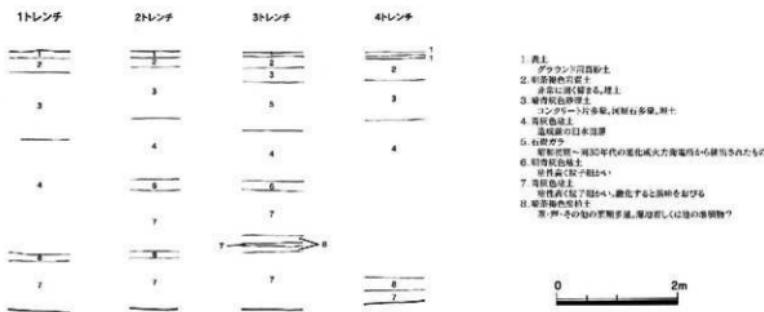


Fig.20 恒富中学校内地点土層断面図(1/80)

6. 粟野名町島田地点

所在地 延岡市粟野名町1538番地外
調査原因 共同住宅建設
調査期間 2005.11.18~2005.11.28

調査面積 37.5m²
担当者 山田
処置 工事着手

(1)位置と環境

延岡市中北部に位置する粟野名町は、祝子川と北川に挟まれた平野部の南部に位置し、水田地帯が広がり氾濫原の微高地には古くから集落が営まれている。微高地上には県史跡延岡古墳群の円墳が点在し、畑地からは弥生時代後期の土器類が出土したいわれている。また、昔は本村門と呼ばれた集落中心地に粟野名神社（旧称帝太明神）が存在し、調査地は神社から北西約150mにある標高約2mの水田上に位置する。調査地南側には道路を挟んで東西方向に微高地が形成され、粟野名神社を含めて古くからの集落地ともなっている。調査地付近の小字は島田といわれ、河川氾濫時に島状になった水田の存在を示すもの、若しくは氾濫時に島状に孤立する集落の周囲にある水田を指していたのか定かでないが、何れにせよ河川氾濫に由来する名称と考えられている。

(2)調査の概要

調査は、事業者との協議で現水田層及び水田境界石列を再利用するとの意向を受け、人力掘削によって行うこととし、開発予定地の建築箇所を中心にトレレンチ法により実施した。

調査の結果、各トレレンチの水田層直下から祝子川水系の河川堆積物とみられる川砂層が厚く堆積しているのが確認され、地表下約1.5~1.7m（標高約0.5m）付近で多量の湧水面を検出した。また、集落よりに設定した1トレレンチからは、地表下約1.0m付近より60cm以上にわたって河原石層を検出し、氾濫原若しくは旧河道の一部が存在していたことが判った。この他、5トレレンチ最下層の暗茶褐色砂礫層（湧水層）から弥生終末~古墳時代初頭の高坏脚部が出土



Fig.21 粟野名町島田地点位置図(1/15000)



Fig.22 粟野名町島田地点調査区配置図(1/2500)



PL.25 調査前(南西から)

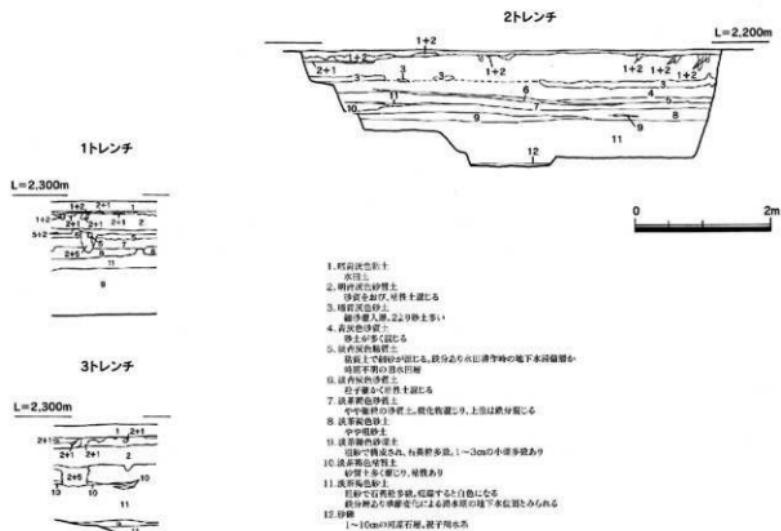


Fig.23 萩野名町島田地点土層断面図(1/80)



PL.26 完掘状況(2トレンチ)



PL.27 土層断面(1トレンチ)



PL.28 遺物検出状況(5トレンチ)

した。この層は白色粒子（石英）が多く含まれていることから花崗斑岩を基盤とする祝子川水系の氾濫堆積物と考えられる。出土遺物は1点のみで土器表面は磨滅していることから周辺の遺物包含層からの流入品とみることが適当と思われる。なお、4・5トレンチは湧水が激しく、厚く堆積する砂層が崩落するため安全を考慮して地表面からの土層観察に止めておいた。

(3)検出遺構

なし

(4)出土遺物

5トレンチの現地表下約1.5mより高環脚部が1点出土した。1は、高環脚部で緩やかに外湾し環部境界付近で欠損している。この高環の成形技法は、脚部成形後に環部を組み合わせて、ヘソ部に指で先端部をやや細めに成形した粘土塊を充填するタイプで、外面上部には環部との接合痕が明瞭に残っている。脚部内面は粘土充填後の押さえ痕は観察されない。

(5)まとめ

今回の試掘調査では、予想以上に祝子川の氾濫による砂上層や旧河道の一部と推定される河原石層の堆積が大量に検出され、祝子川の流路変遷の一端を知り得る資料が得られた。また、流れ込みとはいえ弥生～古墳時代の遺物が確認されたことから、周辺部における同時期の遺跡の包蔵を裏付けるものといえ、今後の諸開発事業に留意する必要があろう。

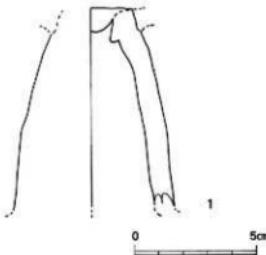
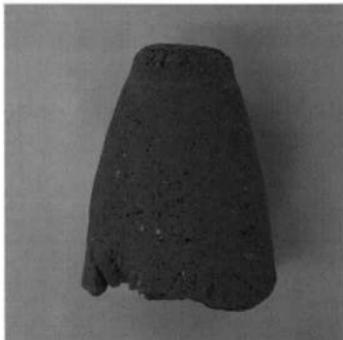
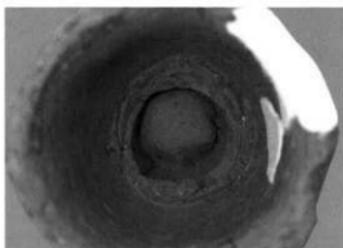


Fig.24 素野名町島田地点出土遺物実測図(1/2)



PL.29 出土遺物(高環脚部)



PL.30 出土遺物(高環脚部・内面接合部)

報告書抄録

ふりがな	かんだわきひせき みなとやにふん かみむないせき	あかいせき	つねとみちうがこうなむてん あわのみょうましまだらん
書名	神田給遺跡 港山古墳 上無田遺跡(第5次) 赤木遺跡(第11次) 恒富中学校内地点 粟野名町島田地点		
副書名	平成17年度市内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書		
巻次			
シリーズ名	延岡市文化財調査報告書		
シリーズ番号	第32集		
著者名	山田 駿、尾方農一		
編集機関	延岡市教育委員会		
所在地	宮崎県延岡市東本小路2-1		
発行年月日	2006年3月31日		

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
神田給遺跡	延岡市片川町 3198番地	452033	5022	32° 32' 38"	131° 39' 49"	2005/0421 2005/0426	15.7m ²	携帯電話 無線基地局
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
散布地	古墳		無		無			
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
港山古墳	延岡市塙浜町 4丁目1630-2外	452033	5028	32° 32' 13"	131° 40' 45"	2005/0525 2005/0610	29.1m ²	携帯電話 無線基地局
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
散布地	古墳		土壤		甕形土器		隣接して港山1号墳所在	
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
上無田遺跡 (第5次)	延岡市野地町1丁目 4149番2-同4150番1	452033	4082	32° 34' 12"	131° 38' 45"	2005/0714 2005/0722	10.0m ²	携帯電話 無線基地局
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
散布地	縄文・古墳		無		無			
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
赤木遺跡 (第11次)	延岡市舞野町 1484-1	452033	4035	32° 34' 10"	131° 36' 05"	2005/0831 2005/0909	10.0m ²	市道掘削
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
散布地	旧石器・古墳		無		ナイフ形石器・剥片・ 石器・敲石			
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
恒富中学校 内地点	延岡市古城町 4丁目149外	452033		32° 33' 55"	131° 39' 36"	2005/0928 2005/1006	55.0m ²	校舎改築
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
	無		無		無			
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
粟野名町 島田地点	延岡市粟野名町 1538番地外	452033		32° 33' 55"	131° 41' 09"	2005/0928 2005/1006	37.5m ²	共同住宅建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
	弥生・古墳		無		高坏		流れ込み出上	

平成17年度 市内遺跡発掘調査に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2006年3月31日

発 行 延岡市教育委員会
宮崎県延岡市東本小路2-1

印 刷 吉田印刷株式会社
宮崎県延岡市川原崎町441-1